

# シンポジウム I 「勤務医の労働条件」

13:20~15:20

---

座長：埼玉県医師会理事

丸山正董

埼玉県医師会勤務医部会副部会長

小谷昭夫

シンポジスト： 埼玉医科大学病院

里見昭

草加市立病院

土屋史郎

深谷赤十字病院

茂木陽一

越谷市立病院

依田綾子

朝霞台中央総合病院

下田仁恵

コメンテーター：日本医師会常任理事

鈴木満

## シンポジウム I

### 座 長

埼玉県医師会理事

丸 山 正 董

ただいまから、勤務医部会のシンポジウムということで開催させていただきます。

シンポジウム I は、「勤務医の労働条件」、II は、「勤務医と医政活動」ということであります。

午前中からのお話を聞いていますと、日本医師会の勤務医部会も過去数年にわたってこういうことに論じてきたということでございます。埼玉県医師会勤務医部会としても、この労働条件をあからさまにしてみようということで、埼玉県独自の勤務医アンケートなど取らせていただきまして、余り大阪府医師会勤務医のアンケートと、その勤務医に関しては大差はなかったけれども、労働条件としては大分変わってきているということがわかってまいりました。

勤務医の労働条件は何が問題点かと、これは非常に1つにまとめられる問題ではないと思いますけれど



も、こういうことでシンポジウムを開かせていただけるということになりました。その経緯について、小谷先生からひとつお願いしたいと思います。

### 座 長

埼玉県医師会勤務医部会副部長

小 谷 昭 夫

ディスカッションの時間がございますので、余りお時間はとらないつもりでお話しをさせていただきます。

埼玉県は、ご存じのとおり、日本の中で10万人当たりの医師数が一番低いという特殊の状況がございますし、東京都のベッドタウンという場所柄でございます。

そういう中で、埼玉県に勤務している医師がどういう労働条件で仕事をやっているかと、先ほどの勤務医部会長の戸倉先生からのご報告で、埼玉県の特徴というものは既にお話しをいただいたと思っています。

ただ、もう少し、実は設立母体、公立、公的あるいは大学、私立、あるいは地域の偏在性の問題、診療科の問題等について、若干アンケートの中でまだ明確でないという状況があるとすれば、それぞれのシンポジウムの方々に現状をお話ししていただいて、よりそれを深めていくことの必要性があるかと思って、きょう



は、それぞれの代表の先生にシンポジストとして出席をいただいております。

シンポジストの方々のご略歴につきましては割愛をさせていただきます、抄録をご覧いただきたいと思っております。

## ■ シンポジウム I

IからIIという連続的な形で、ある程度のシンポジウムの結論とまでは至りませんが、何らかの埼玉県からの決意というものが出てくればということの考え方の中で、ディスカッションも大いにしていきたいということで、取り急ぎシンポジウムに入らせていただきたいと思っています。

まず初めに、里見先生にシンポジスト第1番目の講演をお願いしたいと思っています。

「勤務医の労働条件」といった共通のテーマの中で、

里見先生は大学の立場でお話しをいただいております。

最初のお話しでは、新臨床研修病院として医師の引き上げの大元締めであろうという考え方があって、現場と、そういう形でいろいろと先生の大学の立場からお話しをいただきたいと思っています。

ただ、今いろんなご提言がありまして、また、それについてもこの講演の中でお話しいただけるとと思っています。

よろしく願いいたします。